



# 1210あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第24回(11/27) 栗田禎子先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

## Book1 歴史の現在と地域学——現代中東への視角

著者:板垣雄三 出版社:岩波書店

コメント:日本の歴史学、中東研究を牽引してきた著者による論考集。中東という地域で起きていることを世界史全体の中に位置づけようとする視点に貫かれており、中東を通じて世界や日本の現在が見えてくる。初版は1992年だが、中東に対する19世紀以来の植民地支配の展開や、それに対する民衆のたたかいの歴史、現在中東に成立している体制の性格等をめぐる鋭い分析を含み、現在の中東革命の展開をも予見させるものとなっている。

## Book2 中東(〈「南」から見た世界〉シリーズ第4巻)

編集:栗田禎子 出版社:大月書店

コメント:1990年代以降、アメリカ主導のいわゆる「グローバル化」のもとで、中東が抱えることになった諸矛盾を分析しようとしたもの。パレスチナ、イラク、イラン等の抱える問題につき、それぞれの専門家が深い分析を加えている。ムバーラク政権下のエジプトにおける民主化をめざすたたかい、また、女性やジェンダーの問題等に関する論考も含む。

## Book3 イスラーム地域の民衆運動と民主化

編集:私市正年・栗田禎子 出版社:東京大学出版会

コメント:従来、欧米等の中東研究では注目されることがなかった中東内部における民衆運動や民主化を求める動きに焦点を当て、その可能性や限界性・課題を検証しようとしたもの。現状分析だけでなく歴史学の立場からのアプローチを重視し、また、中東だけでなく、東南アジア等の事例も広く対象に含めている。

## Book4 中東政治学

編集:酒井啓子 出版社:有斐閣

コメント:比較政治学と地域研究を架橋するという問題意識に基づき、現代中東に関する若手研究者らの刺激的論考を集めている。体制を異にする中東諸国が共通して抱えている課題や、パレスチナ問題の中心性、現状を打破するための新しい連帯の築き方、等の重要な論点が提示される。

## Book5 「総特集—アラブ革命」〔『現代思想』2011年4月臨時増刊号(39—4)〕

コメント:2011年春の「アラブ革命」の重要性を、日本の中東研究者たちがいち早く認識して組んだ特集号。パレスチナ問題、エジプト現代史等の専門家たちによる分析に加え、海外の論者たちの論考の翻訳や、ヨーロッパ現代史の研究者による発言も含む。エジプト革命中に現地で発表された文書・パンフ類の翻訳を含み、史料的価値もある。

## Book6 エジプト革命

著者:長沢栄治 出版社:平凡社

コメント:エジプト現代政治・政治思想を長年研究してきた著者による「1月25日革命」論。19世紀以来のエジプト民衆のたたかいの中で今回の革命が持つ意味を明らかにすると共に、今後の困難・課題をも詳細に論じている。

## Book7 アラブ革命の遺産

著者:長沢栄治 出版社:平凡社

コメント:これまであまり注目されることがなかった中東における共産主義運動の展開を、エジプトの事例に関して深く掘り下げた労作。特にユダヤ系マルクス主義者が共産主義運動の中で果たした役割と彼らが直面した困難に肉薄している。

